

大規模地震・津波を想定した防災訓練を実施 ～令和4年度 室蘭港 大規模地震・津波総合防災訓練～

室蘭開発建設部

令和4年10月8日(土)、開港150年を迎えた室蘭港において、大規模地震・津波総合防災訓練を入江地区耐震強化岸壁で実施しました。訓練には、北海道胆振東部地震で被災地の支援活動を行った北陸地方整備局所属の大型浚渫兼油回収船「白山」を始めとして、16の機関・団体から約130名が参加しました。

訓練に先立ち開会式では、篠宮 彰浩室蘭開発建設部長から訓練開始の宣言、青山 剛室蘭市長より開催挨拶ののち、来賓として出席いただいた堀井 学衆議院議員、山岡 達丸衆議院議員よりご挨拶をいただき訓練を開始しました。



開会式



篠宮室蘭開発建設部長



青山室蘭市長



堀井 学代議士



山岡 達丸代議士

訓練は、三陸沖北部を震源とするマグニチュード8.3の地震が発生し、室蘭市で震度6弱の強い揺れが発生。地震発生直後に大津波警報が発表され、最大5.3mの津波が襲来。その後、津波注意報に切り替わり、津波注意報が解除された状況という想定で、①避難訓練、②広域海上点検訓練、③油回収訓練、④被災状況調査訓練、⑤油拡散訓練、⑥港湾巡視訓練、⑦航路啓開訓練、⑧漂流者捜索・救助訓練、⑨緊急支援物資輸送訓練を行いました。今回は、被災した係留施設の代替施設として、室蘭開発建設部の広域防災フロートを活用し、港湾業務艇「みさご」を係留しました。当日は、天候にも恵まれ、予定していた全ての訓練を行うことができ、各関係機関・団体による迫力ある訓練が展開されました。



訓練状況



訓練状況

訓練終了後、閉会式において、来賓の鈴木 宗男参議院議員より訓練の感想をいただき、主催者の鈴木徹北海道開発局港湾空港部長から「本日の訓練は、関係機関の様々な連携、協力を必要とする対応について総合的に行ったものであり、大変有意義であった。改善点を見いだすことも重要であり、連携・協力の体制を一層、深めていきましょう。」と講評を述べ、篠宮室蘭開発建設部長より訓練終了を宣言し、無事訓練を終了することができました。今後も、より一層の安全・安心な港湾活動の実現に向けて継続的に訓練を実施

し、災害時にも関係機関が連携して迅速かつ的確な対応ができるよう、防災力の強化を図ってまいります。

また、訓練終了後に大型浚渫兼油回収船「白山」にて、国会議員や関係者を対象とした内覧会、10月9日(日)10時から、一般公開が行われ約70名の方々が船内の設備等を見学しました。



鈴木 宗男参議院議員



鈴木北海道開発局港湾空港部長



白山一般公開

